

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成25年10月24日 (2013.10.24)

【公開番号】特開2012-58457(P2012-58457A)

【公開日】平成24年3月22日 (2012.3.22)

【年通号数】公開・登録公報2012-012

【出願番号】特願2010-200944(P2010-200944)

【国際特許分類】

G 0 3 G 9/08 (2006.01)

G 0 3 G 9/087 (2006.01)

G 0 3 G 7/00 (2006.01)

【F I】

G 0 3 G 9/08 3 7 4

G 0 3 G 9/08 3 6 5

G 0 3 G 9/08 3 9 1

G 0 3 G 9/08 3 3 1

G 0 3 G 7/00

【手続補正書】

【提出日】平成25年9月9日 (2013.9.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

少なくとも結着樹脂と離型剤とを含むトナー母粒子に、
 B E T 比表面積 $250 \sim 500 \text{ m}^2 / \text{g}$ であり、体積平均粒径 $150 \sim 250 \text{ nm}$ である酸化チタンを $0.1 \sim 5$ 重量%含有し、
前記結着樹脂としてポリエステル樹脂を含み、
前記酸化チタン以外の着色剤を含まず、
 $1.0 \text{ mg} / \text{cm}^2$ で基材上に定着された場合、可視光の透過率が 90% 以上であるこ
 とを特徴とする

静電荷像現像用透明トナー。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の静電荷像現像用透明トナーとキャリアとを含むことを特徴とする
 静電荷像現像剤。

【請求項 3】

画像形成装置に着脱可能であり、少なくとも請求項 1 に記載の静電荷像現像用透明トナーを収容することを特徴とする
 トナーカートリッジ。

【請求項 4】

少なくとも現像剤保持体を備え、画像形成装置に着脱可能であり、請求項 2 に記載の静電荷像現像剤を収容することを特徴とする
 プロセスカートリッジ。

【請求項 5】

像保持体を帯電させる帯電工程、
 帯電された前記像保持体を露光して静電潜像を形成する静電潜像形成工程、

前記静電潜像を、トナーを含む現像剤を用いて現像し、現像像を形成する現像工程、
前記現像像を、基材上に転写し転写像を形成する転写工程、及び、
前記転写像を定着する定着工程、を含み、

前記トナーが請求項1に記載の静電荷像現像用透明トナー、又は、前記現像剤が請求項
2に記載の静電荷像現像剤であることを特徴とする
画像形成方法。

【請求項 6】

前記基材の白色度が 65 以上である、請求項5に記載の画像形成方法。

【請求項 7】

前記基材の白色度と前記静電荷像現像用透明トナーのみが定着された基材の白色度との
差が 10 以下である、請求項6に記載の画像形成方法。

【請求項 8】

像保持体、

前記像保持体を帯電させる帯電手段、

帯電された前記像保持体を露光して静電潜像を形成する静電潜像形成手段、

前記静電潜像を、トナーを含む現像剤を用いて現像し、現像像を形成する現像手段、

前記現像像を、基材上に転写し転写像を形成する転写手段、及び、

前記転写像を定着する定着手段、を有し、

前記トナーが請求項1に記載の静電荷像現像用透明トナー、又は、前記現像剤が請求項
2に記載の静電荷像現像剤であることを特徴とする
画像形成装置。

【請求項 9】

前記基材の白色度が 65 以上である、請求項8に記載の画像形成装置。

【請求項 10】

前記基材の白色度と前記静電荷像現像用透明トナーのみが定着された基材の白色度との
差が 10 以下である、請求項9に記載の画像形成装置。